

平成20年10月15日

徽

TEL. 025-552-1511 (内線 2366)

(1) 既存ストックの長寿命化と計画的な更新

- ・ 近い将来に直面することが予想される、道路構造物の老朽化に適切に対応できるように、長期的な視野に立った取組と道路整備の財源確保が必要である。また、厳しい財政状況の下、効率的な管理が不可欠であるとともに、海岸に近い地域においては、塩害対策にも配慮していただきたい。

(2) 高速ネットワークの有効活用による交通の転換

- ・ 地方においては、高速道路の交通量が比較的に少ないことから、国道に並行する高速道路を有効活用するため、ETC を利用した多様な弾力的な料金施策の実施やスマート IC の設置を行うなど、交通渋滞や交通事故の発生時等、その状況に応じて交通の転換を図るなど、既存ストックの有効活用をお願いしたい。

(3) 政策的・戦略的な道路整備

- ・ 地方の活性化や安全安心のまちづくりを進めるためには、地方の声や道路整備の実情に十分配慮し、真に必要な道路整備を遅らせることのないようにすることが重要である。合わせて、危機管理上、リダンダンシーの確保は、生命と安全を守るために必要不可欠であることから、真に必要な道路は、通行量の多少等にかかわらず、政策的・戦略的に整備されるべきである。

(4) 個性的な地域づくりへの支援

- ・ 当市が進めている「糸魚川ジオパーク構想」は、ただ単に地質遺産を保護するだけでなく、それと関連する自然・文化資源等を合わせて活用し、地域振興に結びつけようというものであるが、市内には24のジオサイトがあることから、これらを有機的に結びつける交通ネットワークの整備や情報発信が課題であり、個性的な地域づくりに対する支援をお願いしたい。

(5) 良好な生活環境・景観の形成

- ・ 地球温暖化対策や沿道の環境対策をはじめ、高齢社会等に対応したバリアフリーの導入など、歩行者の安全確保と快適な生活環境の構築による、人にとやさしい安全な道づくりが必要である。また、美しい景観や活力ある地域づくりを行う「風景街道」を推進することにより、地域資源や個性を活かした多様な質の高い空間の形成を目指し、地域活性化につなげていただきたい。

○現状

- ・ 広域幹線道路として、東西を国道 8 号と北陸自動車道が、南北を国道 148 号が結び、市民生活や経済の動脈として大きな役割を担っている。
- ・ 国道 8 号においては、能生～糸魚川間の通勤通学時の渋滞の常態化に加え、道路の維持管理をはじめ、各種工事により、日中においても頻繁に渋滞が発生している。また、地形的要因から、雨量や越波による通行規制区間があり、気象状況等により、たびたび通行規制が行われており、市民生活や地域経済に大きな影響を及ぼしている。
- ・ 国道 148 号は、長野県のみならず首都圏や中京圏と北陸圏を結ぶ主要路線であり、観光、物流の主軸としての重要性が増大しているが、県境付近は、急峻で脆弱な地形・地質のため、災害が発生しやすく、急カーブで幅員が狭いものの、地形的条件により現道の抜本的な改良が困難な状況である。
- ・ 県道については、それぞれ国道と接続し、市内の主要地域を結び、市民生活と地域経済活動を支える重要な幹線道路であるが、未改良区間が多くあり、早期に改良整備を進めていかなければならない状況である。
- ・ 都市計画道路については、北陸新幹線の開業を見据え、糸魚川駅南側の東西を結び、広域幹線道路へアクセスする中央大通り線の整備が進められているが、一部の区間が未完成のため、ボトルネックとなっている。
- ・ 合併により広大となった市内の各地域を結ぶ主要幹線道路、市街地や集落間を結ぶ道路、市民生活に密着した市道など、便利で安全な道路網の整備が求められている。

○課題

- ・ 渋滞、越波対策としての、「国道 8 号糸魚川東バイパス」の早期全線完成
 - ・ 安全で円滑な交通を確保する、「国道 8 号親不知防災」の早期完成と「親不知バイパス」の整備
 - ・ 市民生活の安全・安心と地域経済の活性化に寄与する、「地域高規格道路松本糸魚川連絡道路」の早期整備
 - ・ 渋滞対策としての、「県道姫川港青海線・姫川橋」の整備
 - ・ 糸魚川駅南側の幹線道路としての、「都市計画道路中央大通り線」の早期完成
 - ・ 道路施設の老朽化に対応した適切な維持管理と更新
 - ・ 合併前の旧市町の一体性を確立するための、地域間を結ぶ連絡道路の整備
 - ・ 糸魚川ジオパークをはじめとする、観光施設等へのアクセス道路と相互を結ぶ道路ネットワークの整備と情報発信機能の向上
- ※ これらに対応するため、平成 19 年 3 月に、20 年後を見据えた「いといがわ交通ネットワークビジョン」を策定し、取り組んでいる。

【交通ネットワークの目標】

○「ひと」「もの」の交流促進による「産業の活性化」と「安心な暮らしの向上」

【将来像】

○広域都市間から市内地区間まで、「ひと」「もの」の交流が盛んになり、産業の活性化に資する交通ネットワーク

○商業、観光面において、糸魚川市の魅力を活かせる交通ネットワーク

○「ひと」「もの」が移動しやすく、安心(安全で便利で快適)な暮らしができる交通ネットワーク

※この将来像の根底には、災害や緊急時にも、最小限の生活機能を保証できる交通ネットワークの構築が前提となっている。

【交通ネットワークの基本的な方針】

○十字型経済圏形成の拠点として、日本海国土軸及び都市間連携軸を活かした交流促進による産業の活性化

・三大都市圏及び環日本海交流圏との「ひと」「もの」の広域交流の拡大と、地域の魅力発信を図るため、都市間連携軸の整備を進める。

・北陸、長野、新潟、日本海を十字型に結ぶ物流・交流拠点としての機能強化を進める。

・産業の活性化を図るため、日本海国土軸の有効活用を進める。

○都市内連携軸を活かした、効率的で便利なまちづくり

・既成市街地と各集落及び集落間の連携強化による地域の一体化と、効率的な都市活動の実現を図るため、都市内連携軸の整備を進める。

・安定した物流による経済活動の活発化を図るため、物流ネットワークを構築する。

・公共施設等の利便性向上を図るため、施設へのアクセスを強化する。

・周遊観光の実現を図るため、観光施設相互のアクセス性を強化し、観光情報の発信機能を付加する。

○誰もが快適・安全に利用できる、道路と公共交通の整備

・緊急交通や災害時交通の確保を図るため、災害に強い道路網構築と道路改良を進める。

・誰もが快適で安全に移動ができるまちづくりを図るため、利用しやすい便利な公共交通を確保する。

・安全で便利で快適な日常生活の実現を図るため、良好な生活道路網を整備する。

・市街地や集落の地区内生活の支援や相互の連携強化を図るため、公共交通ネットワークを構築する。

・安全で円滑な交通の確保を図るため、情報の提供と安全対策を充実させる。

今後の道路行政についての意見・提案

③道路施策の重点事項(代表事例、期待する効果や評価等)

様式 ④

新潟県糸魚川市

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
・地域活力の向上 と競争力強化	・ 姫川港とアクセスする「地域高規格道路松本糸魚川連絡道路」の整備	・ 地方港湾「姫川港」は、総合静脈物流拠点港(リサイクルポート)に指定されており、近年、取扱貨物量の増大とともに、さらなる拡充に向けて整備が進められている。しかし、これと接続する、内陸部との陸上交通ネットワークが不十分であることから、物流ネットワークの形成に配慮したアクセス強化が必要である。	
・少子・高齢化への対応と地域の自立	・ 地域経済基盤強化のための「地域高規格道路松本糸魚川連絡道路」の整備 ・ 「一般国道 8 号糸魚川東バイパス」の全区間の整備 ・ 「一般国道 8 号親不知防災事業」の推進と「親不知バイパス」の整備 ・ 合併前の旧市町を結ぶ「交流道路」の整備	・ 地方においては、少子高齢化が急激に進行しており、地域の活性化を図るためには、地域経済の強化や安心して暮らせる地域社会の形成が重要である。また、自動車へ依存する割合が高いものの、合併後においても、旧市町間を結ぶ道路が脆弱であるため、市の一体感が阻害されている状況であるので、地域経済の強化や地域間の交流を支えるためにも、戦略的な道路整備が必要である。	

今後の道路行政についての意見・提案

③道路施策の重点事項(代表事例、期待する効果や評価等)

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
・安全・安心の確保と災害に強い国土づくり	・信頼性の高い「地域高規格道路松本糸魚川連絡道路」の整備 ・「6 バイパス・4 流域 2 ルート」の整備	・我が国は、地震や集中豪雨による土砂災害が頻発し、また、積雪寒冷地での降雪は、市民生活に大きな影響を与えており、長い海岸線や急流河川、広い中山間地を有する当市においても例外ではない。このため、災害時等のリダンダンシー機能を確保すること を目的に、「い」といいがわ交通ネットワークビジョン」においても、「6 バイパスと港の整備」、「4 流域 2 ルートの完成と機能向上」を位置付けているところである。特に、長野県大町・松本方面とを結ぶ国道 148 号は、交流・物流において地域経済の大動脈であるが、脆弱なことから、災害や緊急時にも交通が確保できる信頼性の高い道路整備が必要である。	